

# 東京都写真美術館外部評価委員会

## 平成 21 年度事業 評価結果報告

平成 22 年 8 月 25 日

(目 次)

1	座長あいさつ	.....	1
2	総 評	.....	2
3	評点一覧	.....	4
4	評価結果一覧	.....	5

## 座長あいさつ

この度、外部評価委員会として平成 21 年度の東京都写真美術館の運営に対する評価結果を、福原義春館長に提出しました。

東京都写真美術館は、「存在感のある美術館」を中・長期的なミッションとしています。評価は、ミッションの具体的な事業運営項目に沿って行いました。

平成 21 年度評価では、作品収集、作品管理、調査研究において、効率的で計画的な作品の収集管理が認められること、展覧会では、調査研究に裏づけされた企画や、多様なテーマと質の高い展覧会企画を提供し、来館者の満足度を高めていること、また、集客に向けた努力と工夫により、来館者数について目標数を大きく上回ったことについても、委員一同、高く評価いたしました。

また、当館を支援していただく企業・団体等の支援会員について、写真美術館への理解・協力を深め、良好な関係を継続して築いていることについて、高い評価をさせていただきました。

事業運営については、業務に見合う人材面の充実、地域等との繋がりを強める連携の推進、館への案内導線など来館者サービスの面でも、取り組みをさらに進めていかなければならない課題が残されています。また、展覧会等高く評価された項目についても、さらなる強化・充実・発展を目指せる余地は十分にあります。

当委員会では、この評価が東京都写真美術館の今後の事業運営の改善、発展の一助となることを目的としていることから、各委員からの提言、課題等に着実、迅速に取り組まれるよう期待するものです。

平成 22 年 8 月 25 日

東京都写真美術館外部評価委員会

座長 榊山 紘一

## 【総評】

平成21年度の美術館運営について、まず、優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集においては、収集基準や方針に則った作品収集を図っている。日本の写真文化のセンター的役割を果たす写真美術館としては、一作家につき3、4点の作品収集では寂しい面もあるが、限られた条件の中で努力をしており、質の高い作品を効果的にかつ継続的に収集し、コレクションの充実が図られていることを高く評価している。

作品の保存管理においても、専門知識に基づき適切な対応が行われており、そのレベルも学術的に評価できるものであるが、それを支える人材を恒常的に配備しているかという点については十分とはいえない。人員あるいは装置、施設設備も含めて未達成の部分があり、充実を望みたい。調査・研究面では、学芸員による紀要等への発表意欲も高く、そのレベルも学術的にも評価できる。ただし、学芸員の異動に際しては、専門性がきわめて高いので、専門性を生かす、あるいはそれを削がないような形での人事管理を望む。

展覧会は、調査研究に裏づけされた企画や他の美術館との共同企画など、多様なテーマで質的に高い展覧会企画を提供している。来館者数は、かつて20万人を割り込んでいたものが今や倍増し、42万8,000人という数はきわめて意義ある数字であり、その努力と成果は高く評価できる。一方、来館者数を増やすことは重要であるが、学芸員の数からすると展覧会が多すぎるとも思われる。準備期間を長くする、あるいは展覧会の回数を減らすなどの戦略を立てていくことが、今後の検討課題である。また、映画の誘致と上映については、写真と映像と両方を視野におさめながら着実に活動を続けており、その多様性、集客性は評価できるが、方向性や戦略が不明確である。今後、館としてのスタンス、コンセプトを固めていく努力を期待する。

普及教育活動では、展覧会に関連した講演会のほか、スクールプログラムも目的にあわせて多様に実施されている。ワークショップは、プリント実技を中心として多彩なプログラムを実施し、写真への基本的興味を深めるなどいまや定着しつつある。

図書資料については、美術館の専門図書室として、写真にかかわる文献、情報収集、その整理と提供も含めて非常に水準が高い。コンパクトでかつ利用者に提供しやすいしくみが配慮されているなど十分に評価できる。

広報宣伝においては、その広報手段を確立しており、アウトソーシングに頼らず、館独自で検討し取組む姿勢に対する評価はきわめて高い。また、恵比寿にあることを視野に入れた上手な広報活動を行っており、また、ガーデンプレイスということ为前提にしたデザイン、ターゲットなど戦略的によく検討されている。

来館者サービス面では、来館者の目線に立った運営に心がけており、来館者からの意見等を常に把握し、迅速な対応が行えるようスタッフとの情報共有を図るなど、その取組や努力は評価できる。一方で、駅から館への案内導線に戸惑う来館者の声も多い。分かりやすいインフォメーションの検討が今後の課題と考える。

インフラ面では、設備の維持、管理は適切に行われているが、館の老朽化に伴い、平成 22 年度に大規模改修を見据えた調査が予定されていると聞く。写真美術館は、商業施設と同じように設計されている印象が強く、美術館に来たという雰囲気やや欠けている。また、エレベーター1 基はいかにも少ない。来館者への安全確保、満足度の維持、収蔵作品の保護の観点からも、東京都に対して十分な対応をお願いするものである。